

第3回国土形成計画モニタリング手法研究会議事概要

1. 日時 平成19年12月14日(金) 16:00~18:00
2. 場所 合同庁舎2号館13階国土計画局会議室
3. 出席委員(敬称略)
清水座長、高松主査、吉原主査、岡本委員、谷口委員、中山委員、山崎委員、森野委員 (計8名)
4. 議事(概要)
 - (1) 開会

議事	国土形成計画のモニタリング項目と指標について
議事	国民にわかりやすいモニタリングシステムのあり方について
議事	その他
 - (2) 閉会
5. 主な発言内容
 - (1) 資料2～資料3に関する質問・議論等
 - ・ 選定したインプットとアウトプット、アウトカムとがどのように対応しているか、インプット指標をどのように選定したか説明願いたい。
作業途中で、アウトカムとアウトプットの階層化まではできていない。今回選んだモニタリング項目はアウトプットとなる。アウトプットが分かれば今後それに対応したインプットが明確になると考えている。(事務局)
 - ・ 資料3 - 2から3 - 4には科学技術政策等、他省庁の政策に関連するような指標が挙げられている。また、指標が示す方向でどちらが望ましいかの判断は、価値判断の問題であり難しい。これまで国土計画は大まかな方向を決めてきおり、それがかえって良かった面があるが、目標が詳細すぎると各方面に軋轢を生じる。向うべき方向を限定して、それに沿う指標を無理やりに設定しようとしているように見える。
 - ・ 計画であるべきビジョンを示し、それに向っているかを断片的ではあるが公開し、違う解釈があれば国民にご意見を頂くと、国民参加への意識を喚起することでもモニタリングは意義がある。
 - ・ 今回の資料は、戦略に掲げた目標の実現に向けての指標設定だが、もっと広い視点で国土づくりのようなものを表わせる指標が別に必要と考えている。モニタリングには大きく2つの意義があり、ひとつは国土形成計画の施策が機能しているか、これには政策評価的視点が必要である。二つ目は政策評価の視点ではなく、今の国土はどうなっているかを概観する指標類の2種類が必要と考えている。(事務局)
 - ・ 計画の記述内容は他省庁とのすり合せが施されているはずだから、矛盾は起きないであろう。そのため、やり方として目標に書いてある言葉から、項目を抽出してもそんなに問題ないと思う。ただ、数値で評価できないものもあるはずで、これを機械的に数値で評価すると、本来の趣旨と違った指標になってしまう可能性

がある。

- ・ モニタリング指標として数値を出してしまうことにより、施策にプレッシャーをかけることがある点にも注意する必要がある。
- ・ 資料に示す指標はあくまで候補をリストアップしただけで、内部でも調整がとれたものではない。今後、指標がふさわしいか、使用可能かをつめていきたい。(事務局)

(2) 分かりやすいモニタリングの指標について

- ・ 国土形成計画に関してアンケート調査を行うとすれば、専門家の集まりである本委員会はグループインタビューの第一階層であると考えられる。なお、アンケート調査は、意見を計画へ反映させるために行うのだから、計画策定前に行うほうが良い。
- ・ モニタリングは、自分の地域の現状を把握し、何を整備するのか自分達で方針を選択する際に有効である。
- ・ グループインタビューでの自由な発言に、新しく重要な発見が見出されるときがある。今回の資料のモニタリング指標のように、インタビューでのキーワードを拾っていき、体系化するのもおもしろい。
- ・ 今後、全国計画へアンケート調査の意見を取り入れることは困難であるが、広域地方計画はこれからなので、PRも兼ねて行うことがタイミング的にも可能。
- ・ 人間ドックは、人間の身体を20項目程度の特定の指標を評価している。定点観測的な要素のある国土のモニタリングは、指標を集約して地域ドックのようにしていくイメージだと思う。行政評価はその後のフォローを行わないケースが多いが、国土形成計画のモニタリングは長く愛される指標を使用して、国土の健康状態を長い期間評価できるシステムであってほしい。
- ・ 定性的な指標を特定することが難しいが、グループインタビュー的な手法で生の声を引き出すには有効である。
- ・ アウトカム指標のマップ作りも重要である。
- ・ 日帰りビジネス圏の例のように、地域ごとに1年後、10年後に利便性等が向上したといった確認ができることには意義がある。また、指標間に優劣をつけられない場合の表現方法としてレーダーチャートを挙げたが、プラスマイナスの価値判断は懸案事項である。(事務局)
- ・ 各指標の望ましい方向は国民が解釈すべきで、それを一方的にきめないことが重要。
- ・ 数値を出すと、勝手にランク付け等がされる不安もある。
- ・ 中山委員の資料の最後のように、多様な意見が汲取れることが重要である。
- ・ モニタリングが次の国土計画に反映されるようなプロセス作りが重要である。
- ・ 広域地方計画が、全国総合開発計画のように開発のみを良しとしていない方針となっているかを再評価できるようにしても良い。
- ・ 国土に関する世論調査は非常に重要である。今後、世論調査のようなものを新たに行うことが可能かどうかを検討すべきである。
- ・ 市町村別の統計も行政側の努力で取れるかが重要である。
- ・ 例えば、各省庁の科学技術関連予算がどの地域にどの程度配分されているかなどを把握できるのが望ましい。総合計画でしかできないものをぜひ取り入れて欲しい。

- ・ 国土交通省でPRも兼ねてシンボリックな統計を行うとよい。
- ・ 放棄された農地などを地図で示せないか。また、データを立体的に示せるとよい。
- ・ 計画の文言から指標を検討するだけでなく、皆さんが関心をもつ指標という観点から指標を検討していくことも重要である。

以上

(速報のため、事後修正の可能性あります)